

2015～2016年度国際テーマのハイライト： 命の尊厳と和

毎年、何千羽もの小さな鶴が、越冬のため高度8000メートルのヒマラヤ山脈を越えていきます。ツル科の中で最も小さいアネハヅルがこの過酷な渡りを生き抜けるかどうかは、互いの協力とチームワーク、家族の絆、そして群れの全メンバー間の調和にかかっています。

日本では、鶴は古くから長寿の象徴とされてきました。日本の伝統工芸である折り紙でも、「鶴」は最も基本的な形であり、日本の子どもは皆折り方を習います。鶴を折ることは、病床にある友人や家族の快復を心から願う、祈りの行為となっています。鶴はまた、日本だけでなく、世界中で、平和の象徴としても知られています。

平和、希望、決意、チームワーク、そして奉仕がつなぐ人と人との絆。それこそが、2015～2016年度の会長テーマ「Dignity. Harmony. Humanity. (命の尊厳と和)」の核心です。

人道奉仕が守る命の尊厳

自分と家族を養える能力を持つことは、人としての尊厳と自尊心を保つための基本原則の一つです。しかし、何百万という人々が、将来の生活向上や子どもの養育にほとんど希望を持っていない状態にあります。

子どもの尊厳イニシアチブによって既存プログラムの強化と拡大を行うことにより、私たちは今年度も引き続き、子どもたちを対象とした奉仕の取り組みを重視します。このイニシアチブでは、ライオンズが次のような活動によって児童奉仕の拡大に当たることを推進します。

- ・ 入院生活を送る子どもたちを支援し希望をもたらす
- ・ 難民キャンプの子どもたちの必要を満たす
- ・ 飢えに苦しむ子どもたちを助ける
- ・ リーディング・アクション・プログラムを継続・拡大する

以上は、子どもたちのニーズに当たる奉仕方法のほんの一部です。子どもの尊厳イニシアチブに関する詳細は、www.lionsclubs.orgでご確認ください。

人のために奉仕すること。われわれの奉仕の遺産は、100年近くの長きにわたり築き上げられてきたものです。2018年6月30日までに1億人への奉仕を目指す百周年記念奉仕チャレンジの目標を達成するためには、それぞれの分野における奉仕の量を今の3倍に増やし、MyLCIのアクティビティ報告を使ってその活動を報告するようクラブに呼びかけ続けなければなりません。奉仕を行うことによって、私たちは世界を変え、また調和と、相互理解と、平和の種を撒いているのです。



国際会長
山田 實紘
(美濃加茂LC)



文化交流とグローバル合同事業が生み出す調和

国際的な組織であるからには、自分のものとは異なる文化を理解し尊重しなければなりません。地区ガバナーや協議会議長には、他国のガバナーや議長と国境を超えた関係を築き、グローバルな合同奉仕事業に取り組む可能性を検討することが奨励されます。クラブにも、姉妹提携プログラムを通じて同様の取り組みに着手することが推奨されます。文化圏や価値観の異なるメンバーと交流することにより、視野が広がり、それが自らの地域で行う活動のヒントともなるはずです。

会員の増加は奉仕の増加

会員とクラブは、国際協会の心臓です。奉仕を続けるためには、会員を増やし続けなければなりません。われわれの発展は、行動的なグローバル会員増強チーム、さまざまな会員増強プログラムと抱き合わせた効果的なマーケティング戦略、クラブレベルに始まる献身的リーダー、そして女性や家族への働きかけなど、多くの要因によって実現されます。

私たちはこれまで力を合わせ、140万人近くにまで会員数を増やしてきましたが、**これからもこの成長を持続し**、この先100年もつねに時代に即した組織であり続けなければいけません。新しいアイデアに耳を傾け、グローバル会員増強チームやグローバル指導力育成チームのメンバーたちと協力して新たな増強策を練り、奉仕を通じて会員たちを引きつけ、またリーダーたちを育てていく必要があります。

成功のカギを握るのはクラブ会長

クラブ会長は、協会の発展にとって欠かせない存在です。メンバーたちが自信を感じ、他のメンバーや地域社会と心を合わせて協力できるよう、クラブ会長一人ひとりがクラブの雰囲気を更新していくことが求められます。

「アスク・ワン」は家庭から

ライオンズに対するあなたの決意と情熱を、家族とも分かち合いましょう。ライオンズとして一緒に奉仕する家族は、人のために奉仕することを家庭の伝統とすることになります。「アスク・ワン」会員増強キャンペーンは、家庭から始まります。ライオンズ・ファミリーが先頭に立って地域奉仕に励むなら、世界一の奉仕団体としてふさわしい評価を受けることができるでしょう。

LCIF — 尊厳を守り、調和を図り、人類に仕える

LCIFは、交付金を通じて世界中の人々の友好を深め、苦しみをなくし、希望と尊厳を取り戻している、われわれの国際的奉仕活動の核です。ライオンズの会員には、あらゆる機会を利用し、惜しみない寄付とメルビン・ジョーンズ・フェローを通じてLCIFを支援していただきたいと思えます。

地区ガバナーエレクトの皆さん。協会創立100周年を目前に他者への奉仕にますます邁進していく中で、われわれが奉仕する相手の**尊厳**を重んじること、奉仕とは単なる親切ではなく相互理解と**調和**をはぐくむ手段であること、そして**人類**に仕えることは義務ではなくわれわれの責任であることを、つねに肝に銘じようではありませんか。